

個が生きる作文指導の評価

— 作文の喜びを味わえる子供の育成をめざして —

曾根 照三

1. はじめに

国語科において、「学ぶ力」が真に学習者のものとなるためには、学習者自身がその力を意識化し、自ら向上させようとするようになる必要がある。なぜなら、言語活動そのものが、不断の自己修正のもとに成立していくものだからである。つまり、「自己を高める評価力」というものは、言語活動の一側面であるとも言える。

国語科の学習において、学習することがらが児童一人一人の内部にしっかりと根を張り、生きた言葉の力となっていくためには、学習者自身が自分の活動を評価できることが大切な要素となるのである。斎藤喜門氏は、「自己評価は、自ら学習の意義をとらえ、主体的に学習を進めていくという自主的な学習主体を育てていくためには、欠かすことのできないもの」と述べている。

自己を高める評価力を育成するとは、学習者自身が真に「学ぶ力」を身につけるということである。そのためには、まず、児童一人一人が「よし、やってみよう。」という気持ちを持って学習に取り組むことが必要不可欠の条件である。そして、次に、「どのように学習を進めたらよいか」という見通しを持って学習にのぞめることが大切な条件となる。

本稿では、児童が意欲的に、しかも見通しを持ってのぞめる作文指導のあり方について述べてみたい。

2. 研究の計画

(1) 研究仮説

- ① 一人一人が明確な目的意識を持ってのぞめるような授業を構成すれば、児童は意欲的に作文学習に取り組むであろう。
- ② 一人一人が興味・関心のあるテーマにそって、豊かな取材活動を展開できるような工夫をすれば、児童は主体的に学習に取り組むであろう。
- ③ 児童一人一人が、常に自分の学習について振り返りながら学習を進めていけるような授業を構成すれば、真の「学ぶ力」が育つであろう。

(2) 具体的方策

- ① 何のために書くのかという目的意識を持たせるために、書いたことが生かされるような場を設定する。
- ② 豊かな取材活動を展開できるよう、自分たちに最もふさわしい取材方法を選択できるようにする。
- ③ 言語による学習である国語科の特質をふまえ、言語で思考し、言葉でまとめる自己評価を積極的に取り入れる。

3. 実践の概要「調査したことをまとめて」

この章では、学習単元「調査したことをまとめて」についての実践を記し、筆者の考える「個が生きる作文指導の評価」のあり方を具体的に示したい。

(1) 単元名 調査したことをまとめて

学年での研究発表会を開くことを想定し、その過程で行われる作文活動を意図している。まず、「どんなことを研究するか」という問題についてグループで話し合い決めることにした。研究発表に、児童一人一人が意欲的に取り組めるかどうかは、テーマが魅力あるものであるかどうかにより大きく左右される。そこで、グループでテーマを決定する際に教師が配慮したことは、次の3点である。

- (ア) 児童が、興味あるテーマを考えやすいよう、資料として24の研究テーマ例を示した。
- (イ) 児童一人一人が目的意識を持って学習に取り組めるようにするため、学年で発表の場を設けることをあらかじめ知らせ意欲付けを図った。
- (ウ) 児童一人一人が本気で研究に取り組めるよう、テーマ設定についての話し合いの時間をあせらず、十分に取るよう心掛けた。

このようにして決まったのが、前ページの研究テーマである。研究テーマ例には、できるだけ子供達が身近に感じられるようなものを準備したつもりである。児童が、示した研究テーマを実際に行ったのは、8班中4班であった。その他のグループは、自分達で考えた独自のテーマを選んだわけである。しかし、どんなテーマを選べば良いのかを考える参考になったように思う。

研究テーマを決定するために要した時間は、グループによってさまざまであった。あるグループは、1時間でテーマも研究方法も話し合えた。また、あるグループは、2時間かけてやっと研究テーマだけが決定できた。しかし、そのような時間的な差異よりも重要なことは、一人一人が納得のいくまで話し合いをすることができたという満足感であったように思うのである。

② テーマにそって豊かな取材活動を展開する。

子供達が、「作文を書くのは苦手」と感じる一番の原因は、何を書いたらよいか分からないということである。つまり、書くための材料があるかどうかということが、作文指導の出発点とも言える重要な点なのである。書くに値する材料をしっかりと集めることができるかどうかということが、作文を書く意欲に大いにかかわってくると考える。

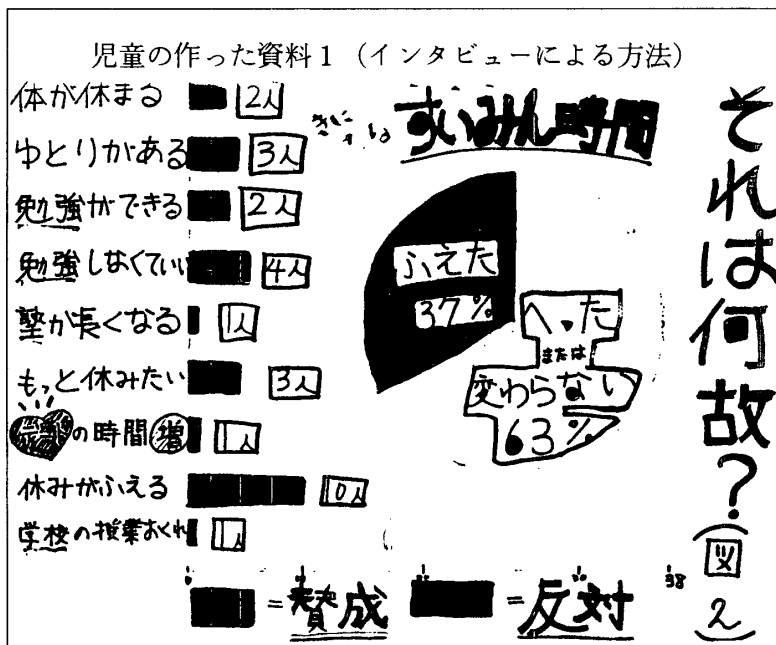
そこで、今回の指導にあたっては、グループによる取材活動を計画し、取材の充実を図ることに努めた。そして、自分達の研究テーマと照らし合わせて、どんな取材活動が最も適しているかを選択できるような方法を考えた。

(ア) 学年児童を対象としたアンケート調査による取材

- (イ) 身の周りにいる人達を対象としたインタビューによる取材
- (ウ) テーマにそった参考文献による取材

このような方法の中から、児童は自分達の研究テーマと照らし合わせながら、取材活動を展開していった。

お互いのグループのアンケートやインタビューに答えながら、学習意欲は、徐々に高まっていったように思う。



③ 研究発表を実のあるものにするために構想を練る。

学習が一人一人の児童に真に価値あるものとなるためには、学習の見通しを持てるということが必要不可欠の条件である。

取材活動がある程度進んだ時点で、研究発表の構想を立てることにした。構想を立てる際、次のようなことを確認した。

(ア) はじめ...

研究テーマ、研究しようと思っただきっかけ、研究の方法について述べること。

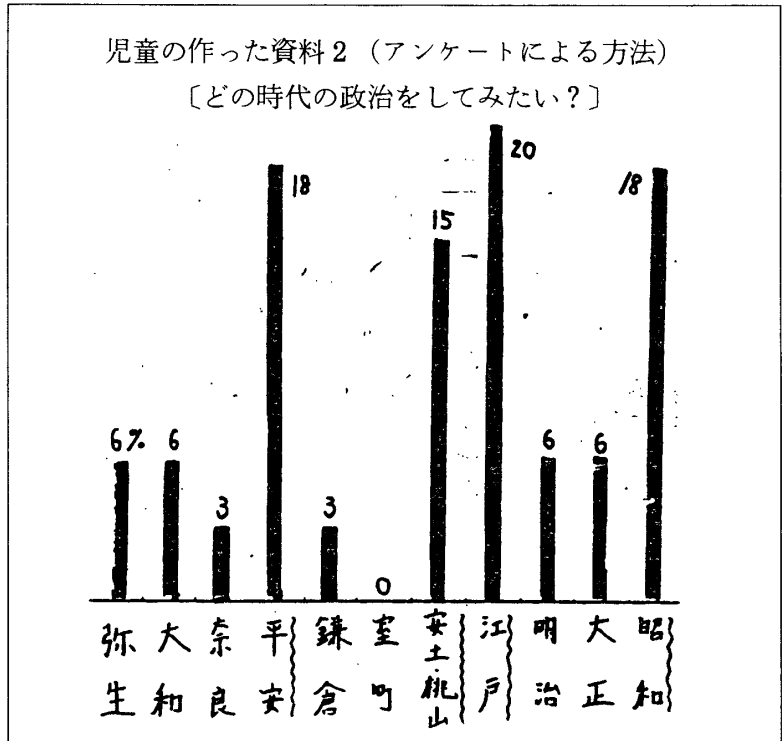
(イ) 中...

調べて分かったこと、その結果について考察したことについて述べること。

(ウ) 終わり...

研究の結果分かったことのまとめ、結論について述べること。

児童の考えた構想メモは、下記のようなものであった。



終わり	中	はじめ
<p>まとめ これからは、 政治について</p>	<p>「どの時代の政治をしてみたいか」</p> <p>「どの時代の政治をしてみたいか」</p> <p>「どの時代の政治をしてみたいか」</p>	<p>資料名</p> <p>○調べて分かったこと ☆考えたこと</p>
<p>これからは、自分達の時代なので未来のトに、この時代は小さい時代だからと、いわれても力を合わせ、世の中のことについて</p>	<p>○調べて分かったこと ☆考えたこと</p> <p>○平安、安土桃山、江戸、昭和時代の多かった</p> <p>☆気に入る時代は、みんないっしょだよ。</p> <p>○心算などない、緑があるきれいな正白、政治の人間生活でよりよい生活とみんなのそとでいる</p> <p>○中々、が好きな理由がわかってくる。</p>	<p>○研究しようと思っただきっかけ</p> <p>○研究の方法 など</p>

1. 研究テーマ (時代の流れと政治)
2. 主題文 (今と昔の政治を比べよう)
3. 構想メモ

「全国小学校国語教育研究大会」に向けて、東雲っ子の本気パワーを発揮しよう

④ 構想メモをもとに記述する。

研究発表原稿を書くにあたって大切なことは、聞き手に良く分かる発表になるように工夫をすることである。その工夫については、教科書や文集広島、そして広島市作文通信の模範文から学ぶことにした。

〔授業記録〕

まず、2人の書き出し文を紹介し、工夫している点を見つけ合った。次に、各グループの構想メモを発表し、お互いのよさを学び合った。

T. では、古浦君の発表原稿をもとに書き方について考えてみましょう。

－例文と古浦君の作った資料を提示する。－

T. 例文を読んで□の中に入る言葉を考えて見ましょう。

C. オレンジ色の□の中に入る言葉は、「分かりました」です。

C全 同じです。

C. 緑色の□に入る言葉は「思います」です。

C全 同じです。

T. では、古浦君が発表を分かりやすいものにするために工夫している点を見つけましょう。

C. 古浦君は、調査結果の中から強調する点をはっきりと決めて資料に分かりやすくまとめていると思います。

C. 分かったことを初めに書いて、次に思ったことを書いていると思います。

C. ○○さんに付け加えます。分かったことと書いたことを書き分けて、聞く人によく分かる発表になるように工夫していると思います。

C. 研究したことについて、なぜそのような結果がでたのか理由を考えて書いているところがいいと思います。

C. ぼくは、値段の研究ということで、実際の数字をあげながら書いているところがいいと思いました。

T. 古浦君は、今みんなが発表してくれたようなことについて、とてもよく工夫していますね。特に調査結果を書く時に大切なことは、①具体的な数字を示すこと ②分かったことと書いたことを書き分けるということです。では、古浦君に負けないような発表原稿をみんなも工夫して書いてみましょう。

－一人一人が、工夫しながら発表原稿作成に取り組んだ。－

T. では、自分の書いた原稿を発表してみましょう。

－以下省略－

この授業の終末で子供達の書いた感想は、次のようなものであった。

- 友達の発表を聞いてよかったと思ったところは、調査結果と自分の意見とを分けて書いていたところです。これから、研究発表をするけれど、聞く人によく分かる発表になるようにもっともっと工夫をしていきたいと思いました。
- 今日の授業をして学んだこと、それは、文章を分かったことと書いたことの二つに分けて書くとすっきりとした発表ができるということです。最後に、自分のまとめなんかも付け加えたら良いと思います。
- 今日は、いろんなグループの構想メモを発表しました。それを聞いて思ったことは、研究をすることにより、いろんな真実がよく分かったと思います。すごくおもしろかったです。

5. 考察

子供達が苦勞して書き上げた作文を、何らかの方法で発表できる場面を設定することは、書く意欲を高めるという意味からも、目的意識を持って学習に臨むという意味からも重要なことである。今回の取り組みでは、学年での研究発表会を開くことを前提に、授業を構成した。そのことが、児童一人一人に確かな目的意識を持たせることに役立ったように思う。

作文における取材活動は、個人作業によることが多い。しかし、今回は、取材の充実を図ることにウェイトを置き、グループでの共同取材という方法を取った。しかも、取材方法をテーマに沿って自由に選択できるようにした。このことが、子供達の発想を広げ、取材活動を豊かで楽しいものにするのに大いに役立ったようである。取材のためのアンケート調査では、私が予期しなかったような問いや結果が多く見られた。「事実の小説よりも奇なり」という諺が、実証されたような気がするのである。子供達が喜んで、「次は、こんなアンケートをとろう。」「今度は、こんなインタビューをとろう。」と夢中になって、学習に取り組んだことが、なによりうれしいことであった。

評価については、学習のくぎりごとに、文章表現による自己評価を中心に行った。そのことが、次の学習への意欲付けに役立ったように思う。

6. 今後の課題

「調査したことをまとめて」の学習は、子供達にとって大変楽しいものだったようである。何人もの子が、休憩時間や放課後、自分たちから進んでその研究や発表のための準備に取り組んでいたことからそのことは明らかである。日頃の作文指導では見られない子供達の生き生きとした表情があった。しかし、「学ぶ力」が真に学習者のものとなるためには、地道な日々の実践の積み重ねが重要である。今後も、一人一人に目を向けた実践を進めていきたい。

作品例

星と伝説
新湯川 絢子
図書室でいろいろな本を見てみると、星についての本がでてきました。いろんな本を秘めている星などはおもしろくも、とよくしりたいということから全員の見聞しをたのんで星と伝説について調べてみることにしました。
調べていくためにまず図書室で星の伝説についての本を借りて、自分の星座について読んでみることにしました。読んでいくといままでしかなかったやぎ座の星は何も星がなかったらしいことまで知りました。
調べおわったところでみんなはアンケートをとってみることにしました。まず本から星座を書き集めて書いていきます。そして、〇をつけてもらうようにし、次にみんなの星座ということで、一人一人の星座を書いてもらいました。最後に知っていた星座についてを書いたら、結果みんなのよくしている星座は冬の星座か、卯ということが分かりました。みんなの星座についてはおとめ座が一番多いことが分かりました。

*紙面の都合により以下省略する。